

日サ協発第 200057 号
2020 年 5 月 14 日

関係各位

公益財団法人日本サッカー協会

国際サッカー評議会(以下、IFAB)から 2020 年 4 月 7 日付回状第 18 号をもって 2020/21 年の競技規則改正を含む、IFAB 第 134 回年次総会における決定について通達されました。

通達自体の日本語訳(概略)は、下記のとおりです。昨年(2019/20)の改正では競技に直結する規則の改正が数多くありましたが、本年の改正はこの数年の改正の中では最も少なくなっています。しかしながら、これまでどおり、サッカー競技にかかわる関係者、特に競技者、監督/コーチそして審判員はこれらの改正を十分に理解した上で、プレー、指導、そしてレフェリングに携わっていただきたく、お願い申し上げます。

IFAB からの回状に添付されている「2020/21 年競技規則一変更と明確化」は、必要に応じ「日本協会の解説」を加えたものを本通達に添付しています。各協会、連盟等において、加盟クラブ、チーム、審判員等関係者に周知徹底を図られるよう、併せてお願い申し上げます。

これらの改正等は国際的には原則 2020 年 6 月 1 日から有効となります。例年日本サッカー協会では、この通達とともに各種競技会における競技規則改正の適用開始日を通知していましたが、昨今の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、各種競技会および試合が延期・中止となっている状況であるため、適用開始日については、日程が確定した時点でお知らせいたします。

なお、今回の競技規則の改正についての説明用映像を本協会のホームページに 6 月初旬までに掲載する予定です。

記

国際サッカー評議会(IFAB)第 134 回年次総会について(決定)

IFAB の第 134 回年次総会は 2020 年 2 月 29 日に北アイルランドのベルファストにおいて、デイビッド・マーチン アイルランドサッカー協会会長が議長となり、開催された。年次総会における主たる決定および議論の概要は、次のとおり。

1. 2019/20 競技規則

昨年(2019/21)の競技規則改正は、満足のいくものであったと評価された。特に、ゴールキック、交代の進め方、チーム役員へのレッドカードやイエローカードの提示、攻撃側競技者が守備のための壁に入ることが出来なくなったことは、すべてのレベルの試合において好影響を与えた。

公益財団法人 日本サッカー協会

〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷 3-10-15) JFA ハウス
Tel. 050-2018-1990 Fax. 03-3830-2005
www.jfa.jp

2. 2020/21 競技規則

いくつかの競技規則改正が承認されたが、文章そのものは、前述のとおり、添付の「2020/21 年競技規則—変更と明確化」で示されている。

なお、6月1日以降、変更点のすべてが競技会および試合において施行されなければならないが、この日以前に開始されている競技会については、事前に施行することも次の競技会が始まるまで遅らせることもできる。

コロナウィルス(COVID-19)と競技規則

COVID-19によって中断されている競技会については、競技会の最後の試合まで2019/20 競技規則を用いるのか2020/21 競技規則を採用するのか選択することができる。

** 親善試合、練習試合あるいは競技会再開準備のための試合については、競技会再開が2020年6月以降であっても、その時に適用されることになっていた競技規則を用いることが可能である。*

主な変更

年次総会で承認された競技規則の主な変更や明確化

- ハンドの反則：
 - ・ 偶発的にボールが攻撃側競技者の腕や手に当たった場合、当たった「直後」に得点、また、その競技者やチームが決定的な得点をする機会を得た場合のみ罰せられることになる(例えば、ボールが手や腕に当たった後、ボールがほんの短い距離しか移動しなかったり、数少ないパスしか行われなかった場合など)。
 - ・ ハンドの反則になるかどうかの判断をするために、「腕」は脇の下の一歩奥の場所の位置までと定義することとした。
- ペナルティーキックおよびペナルティーマークからのキック(KFPM)
 - ・ ボールがけられる前にゴールキーパーが飛び出したが、ボールがゴールを外れたりゴールポストやクロスバーから跳ね返った場合、ゴールキーパーの飛び出しが明らかにキッカーに影響を与えていない限り、キックは再び行われぬ。
 - ・ (試合中、または KFPM において)ゴールキーパーが飛び出して、キックを再び行うことになった場合、最初の飛び出しには注意が与えられ、以降再び反則を犯せば警告される。
 - ・ 試合中に選手に示された警告は、KFPMに繰り越されない。試合中、KFPMの両方で警告となった場合、2つの警告が示されたとして記録されるが、退場にはならない。
 - ・ ゴールキーパーとキッカーがまったく同時に反則を犯した場合、キッカーが罰せられる。
- ビデオアシスタントレフェリー(VAR)
 - ・ 「VAR オンリーレビュー」には、TV シグナルを1度だけ示す。
 - ・ レビューする事象の判断が主観に委ねられるものであったならば、主審は「オンフィールドレビュー(OFR)」することが求められる。これにより、主審は、レフェリーレビューエリアでビデオのリプレーを見ることになる。

その他の重要な明確化

年次総会において、競技規則に関する次の明確化が承認された。

- ゴールポストとクロスバーは、4つの基本的な形状を組み合わせたものでもよい。
- 守備側競技者が意図的にハンドの反則を犯した場合、オフサイドを判定するうえでは、「意図的なプレー」となる。
- プレーの再開後、ゴールキーパーが「不正に」ボールを2度触りした場合（例えば、他の競技者に触れられる前に触れる）、手や腕で触れたとしても、それに応じた懲戒の罰則が適用される。
- 相手の大きなチャンスとなる攻撃を妨害、または阻止する反則があつて、主審が「すばやい」フリーキックを認めたり、アドバンテージを適用した場合、警告とはならない。
- ドロップボールが行われるときに規定の4m以上離れない競技者には、警告される。
- ゴールキックやフリーキックのとき、ゴールキーパーがボールを「フリック（足で持ち上げ）」し、その後、チームメイトがゴールキーパーにボールをキャッチさせるため、頭や胸で戻した場合、ゴールキックは再び行われるが、繰り返し行われたい限り、懲戒の罰則は与えられない。

年次総会では、オフサイドの基本的な原理原則が得点することや、攻撃的なサッカーを促進するという強い願いによって支持されていることが同意された。さらに、そのためには「**第11条-オフサイド**」は、この原理原則を反映し、改正提案することを見据えて、分析され、見直されるべきであるとも同意された。

3. 脳震盪

脳震盪は重要かつ複雑な問題であるが、IFABは試合中に起こったことについて責任を持つという観点から議論を行った。脳震盪の専門家グループからの報告が行われ、引き続き検討を行うことや、数週間中には対応策の試行手順を策定することが合意された。手順は、頭の負傷が実際に起きたとき、また、負傷したと考えられるときの対応方法についてのものになる。

4. 'play fair!':競技のフィールド上で行動

競技規則がサッカーの試合中の争いを減らすことに役立たせられるのか、来年に向け、その方法について焦点を当てて検討することとした。

5. ビデオアシスタントレフェリー(VAR)

FIFAや大陸連盟の主催大会や世界中約40か国においてVARが成功裏に導入されたと報告されたが、各国協会や競技会においてVARの使用や使用計画が顕著に増加していることは喜ばしいことである。幾つかの注目を浴びている競技会において、競技規則が定めているVARの手順の適用に一貫性が見られないことを認識しているが、最近の打ち合わせの中において、これらの競技会の主催者は来シーズンから世界に合わせた適用へと修正する意向を示している。

また、財源確保が困難な各国協会や競技会がより容易にVARを使用できるようなシステムを開発するために、FIFAが重要な役割を担っている様々な技術革新についての説明が行われた。

更には、例えばレビューを行っているときの審判団の会話にアクセスするなど、判定を行うプロセスをより見える化することは現時点では適当ではないものの、レビューのプロセスや主審の最終判定の理解を促進するために現行のコミュニケーション方法を向上させる努力を行うべきであるとした。

6. コミュニケーションと教育

特にメディアチャンネルや競技規則の携帯アプリなどのデジタル機器を通じてなど、引き続きサッカーのステークホルダーが競技規則の理解を推進する手順についての説明があった。

競技規則携帯アプリ

ご案内のとおり、昨年 IFAB は競技規則携帯アプリを立ち上げ、新しく、容易にアクセスでき、環境にも優しい方法で競技規則を紹介している。また、アプリでは、(詳細な説明も加え)ハイライトで強調した直近の変更を付した最新版の全競技規則と共に VAR の手順、用語集や審判団へのガイドラインも見ることができる。アプリは、プロフェッショナルからアマチュア、またサッカーファン、メディアの方々などサッカーや競技規則に興味を抱いている誰にでも役立つものとなっている(より詳しい情報は、www.theifab.com/logapp/で見ることができる)。

アプリは、英語、フランス語、ドイツ語およびスペイン語での利用が可能だが、その他の言語も含めて欲しいとの要望も多いことから、より多くの言語での利用を可能としたアプリも用意している(より詳しい情報については、logapp@theifab.com にコンタクトしていただきたい)。

IFAB は、サッカー界のすべてのエリアからのサポートや多くの提案を歓迎する。それによって競技規則が進化し、サッカーがグラスルーツから国際レベルまで、より公平・公正で、より身近で、また、より楽しめるようになる。

また、引き続き、世界中からのご意見をいただくようにしていきたい。それによって、競技規則が競技のフィールドにおける公平・公正さやインテグリティ(高潔性、健全性)を促進し保証し続けることになる。

以上

国際サッカー評議会
事務局長 ルーカス・ブラッド